

# 宇宙から地上への恵み

目用品から宇宙に飛び出した技術もある。昨秋、ISSの宇宙実験で作ったなんばく質を地球に届けたのは、特注の「魔法瓶」だった。

量化

宇宙から帰還した断熱容器の同型品。中井さんは「魔法瓶の技術が新たな段階に入った」と話す(大阪府門真市で)

宇宙滞在民間の力不可欠



日本発の製品  
「コスモード」

行士のアドバイスで消臭機能の高い下着などを持ち込んだ。仲間全員が快適に過ごせたのは、スピノフされた高い技術のおかげだ。

JAXAは日本の宇宙開発技術からスピンオフした製品を「JAXA COSMODE(コスモード)」。ロゴマークはJAXA提供の名称でブランド化した。英語の宇宙(コスモス)と、流行や生活(モード)を組み合わせた造語だ。

ガイナが第1号で、今ではゴンサウルの衣服、人工衛星データで解析した優良な茶園産の緑茶、炭素繊維強化樹脂を使ったテニスラケットなど約90件ある。JAXA新事業促進部の川井孝之課長(57)は「宇宙には無限の可能性がある。志を同じくする企業と連携し商品を創りたい」と話す。

国産大型ロケットの先端部は打ち上げ時、300度もの

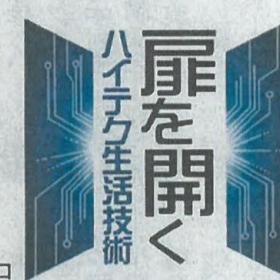
東レが手がけた消臭ポリエン店のユニホームにも採用された。生地の売り上げは年間約3億円。東レは「避難生活用や介護用の衣服などにも広げたい」と意気込む。

昨年末、買い物客らで混雑した複合商業施設「グランフロント大阪」(大阪市北区)。

5階のアウトドア店「ザ・ノース・フェイス プラス」で、店員が自社商品のエプロト上着を男性客に薦めていた。

エプロトには、ユカリから作られた繊維一本一本に、汗のにおいや加齢臭の原因となるアンモニアや酢酸などを吸着・中和する粒が埋め込まれている。同じ原理でアンモニア臭を99%抑える下着のシャツもあり、長時間着用する

ハイテク生活技術



中

日本人が初めて宇宙に行ったのは1990年、平成2年だった。これまで12人の日本人が宇宙に滞在し、日本の宇宙開発技術は世界トップ級になった。その技術が平成間に地上にスピンオフし、生活に浸透しつつある。

日本人が初めて宇宙を行ったのは1990年、平成2年だった。これまで12人の日本人が宇宙に滞在し、日本の宇宙開発技術は世界トップ級になった。その技術が平成間に地上にスピンオフし、生活に浸透しつつある。

登山家らに好評という。店を運営するスポーツ衣料メーカー「ゴールドウイン」(東京)で商品開発にあたる安倍季隆さん(50)は、「宇宙で実証された技術を活用し、優れた消臭効果を実現している」と明かす。

約400キロ、外太空を飛行する国際宇宙ステーション(ISS)。宇宙飛行士は普段着姿で生活するが、水は貴重で洗濯機ではなく、何日も同じ服で過ごす。無重力の影響下では筋力が落ちるため、毎日2時間運動し、汗をかく

も大事な日課だ。ゴ社や繊維大手「東レ」(東京)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)などは2004年、宇宙で快適に過ごす服の開発。約10年前から土井隆雄さん(64)、星出彰彦さん(50)ら日本人宇宙飛行士がISSで着用し、技術は今も引き継がれている。

日本女子大教授(66)は「宇宙飛行士から『におい悩まされなかつた』と報告を受け、商品化の手応えを感じた」と振り返る。

東レが手がけた消臭ポリエン店のユニホームにも採用された。生地の売り上げは年間約3億円。東レは「避難生活用や介護用の衣服などにも広げたい」と意気込む。

サイエンス  
BOX

研究に共同で着手した。電子機器に影響する静電気が起きにくい素材で、高い消臭性と抗菌性を備え、1週間程度の連続着用に耐える下着や船内服を開発。約10年前から土井

隆雄さん(64)、星出彰彦さん(50)ら日本人宇宙飛行士がISSで着用し、技術は今も引き継がれている。

日本女子大教授(66)は「宇宙飛行士から『におい悩まされなかつた』と報告を受け、商品化の手応えを感じた」と振り返る。

東レが手がけた消臭ポリエン店のユニホームにも採用さ

れた。生地の売り上げは年間約3億円。東レは「避難生活用や介護用の衣服などにも広げたい」と意気込む。

日本女子大教授(66)は「宇宙飛行士から『におい悩まされなかつた』と報告を受け、商品化の手応えを感じた」と振り返る。

東レが手がけた消臭ポリエン店のユニホームにも採用さ

れた。生地の売り上げは年間約3億円。東レは「避難生活用や介護用の衣服などにも広げたい」と意気込む。